

認知症血液透析患者の経口・経管(TF)・中心静脈栄養(IVH)での血糖変動-皮下連続式グルコース測定(CGM)による評価

長崎腎病院

○松本玲子 青柳真生 山中真樹子 本多佐代子 丸山祐子 船越 哲 原田孝司

【背景・目的】

経口摂取困難な患者にやむなく TF・IVH を施行することがあるが、糖尿病透析患者には細やかな血糖モニターが必要となる。今回我々は CGM (メドトロニック社「iPro2」) による栄養状態の評価を行った。

【症例 1】

71 歳女性脳梗塞後遺症・糖尿病。嚥下障害のために TF を受けていたが経口摂取可能となった。TF～経口摂取を通じ HbA1c は 5.5-6.0% と良好であったが、CGM にて測定した血糖変動の振幅 MAGE は TF に 222mg/dl と大きく、経口摂取開始に伴い 137mg/ dl に改善した。

【症例 2】

82 歳女性糖尿病・認知症。TF を受けていたが嘔吐頻発し IVH 管理下となった。TF 時には 171.5mg/ dl であった MAGE は 93mg/ dl まで低下したものの CRP は上昇し ESA 使用量も増加した。

【結語】

IVH 管理下での血糖は人工的に安定可能であるが、栄養状態や炎症には悪影響を及ぼすと思われる。一方、TF では血糖変動が大きく心血管イベントにつながる可能性がある。短期的には経口摂取が最善の栄養補充であることが CGM による評価で確認された。